



## ベンチプロジェクトの発展

副代表 小沼 英二

先般、鶴ヶ島市立第二小学校（以下、鶴二小）の校長先生から校内にベンチを設置してほしいとの依頼がありました。校長先生のお話では、地域の人たちと連携した教育環境をつくるのが大切であり、地域の人たちが校庭を利用し、子ども達と交流を深める活動を広めていきたい。そのため、地域の人たちが校庭で遊ぶ子どもたちを見守る際に、校庭の周りにベンチを設置し、交流が活発になるようにしたいとのことでした。

一般的に学校の校庭は、安全面から解放することが制限されている風潮にあるが、「子ども達が地域の人たちと触れ合うことは、教育上大切である。」との考えは、わがクラブが市民の森で様々なイベントや自然体験学習機会を提供し、地域の人たちと子ども達が触れ合う機会を深めている考え方と同じであり、積極的に賛同したい。

また、全国規模で蔓延しているカシノナガキクイムシによる樹木被害や今年7月の突風被害により、市民の森でも相当数の伐採作業を実施しており、ベンチ制作資材の提供は十分可能である。ここ数年間、市役所・社協の協力の元、福祉ベンチづくりとしての提供実績もあるので鶴二小の要請に応じていきたい。具体的には、子ども達と一緒に設置作業する形で年度内にいくつか設置できるようにしたい。



倒木



ベンチの加工作業



出来上がりの丸太ベンチ

## ボランティアのお誘いを受けて

石樽 卯一

今年4月に、里山サポートクラブの方からお誘いを受け入会して、半年になります。

昨年11月に会社を退職して、毎日を暇にしている事もあり、何も知らないままにボランティア活動で地域社会に多少なりとも貢献出来るのであればと思ひ参加致しました。

私は、岐阜市出身で山と川に囲まれた中で育ちましたが、森林や樹林・竹林に対する特別な知識もなく、皆さんの里山に対する見識・経験・情熱には驚かされるばかりでした。

実際の作業では、チェーンソーや草刈機を使って、樹林の伐採整理・草刈をした後の綺麗になった里山を見るに付け、達成感と自然の清々しさを感じる事が出来るようになりました。又、自然体験活動に於いては、子供達を相手に綱渡り遊び等の補助を行い「嬉しそうな会話や、感謝の言葉」を聞く度に、こちらもホッコリとなります。このような地道な活動が、里山の維持と将来への繋がりになるのかなと思ひました。今後も時間の許す限り、里山保全ボランティア活動に参加していきたいと思ひます。



2024年7月28日  
富士山登頂

## 10月～12月の主な活動

市内の六つの市民センターは年間で時期をずらしてセンターまつり実施しています。これまで東市民センターまつりに参加していましたが今年は西市民センターからお声がかかり参加しました。竹細工の他、お赤飯や炊き込みご飯は飛ぶように売れました。バンパーバンは始めは人気が無かったが様子がわかると親子で嵌って楽しんで呉れ、当クラブを知るきっかけになったと思います。

若葉駅西口にある蜂の巣保育園の秋祭りには2度目の参加です。竹製の弓や鉄砲的あて等をして園児や父兄として楽しく半日を過ごしました。

市内の大谷川は旧給食センター裏を流れており、この部分は子供も川の中に入れる数少ない場所です。毎年川掃除、生い茂る樹木の枝落とし、川岸の散策路の除草を行っています。今日大きな問題として認識されてきたマイクロチップスの流出をささやか乍らも防いでいます。気が付いたのは護岸工事に使用されている土嚢もマイクロチップスの元になっていることです。

西中学校から提唱された始まった市内各所に配置する福祉ベンチは、形を変えて重度障害者施設に設置したりして来ました。今度は第二小学校より校庭に設置して欲しいとの要望を受け、目下製作中です。

鶴ヶ島駅からスタートして海洋センター～ガーデンパーク～どんぐり公園に至る散策路の途中にある第二小学校校庭にベンチを設置すれば、市民と小学生が自然と交流する場となるでしょう。

森の整備は我々の大きな活動項目です。市民の森の樹木は本来なら20～30年サイクルで再生するのが良いのですが巨木化し老木化が進んでいます。その結果ナラ枯れが進行している樹木が有ります。今夏の強風で倒れた樹を製材してベンチの材料に利用するのですが重量が有るので運搬するの一苦勞です。

会員の平均年齢が75歳の集団には少し荷が重いですね。製材、防腐剤塗りは12月～1月の作業です。年末の楽しみな行事は親子で作る門松教室です。

今年も五味ヶ谷の森で行います。気温は低くても森の中は風が無いので親子で一所懸命でのこぎりを使ったり縄を縛ったり格闘します。その様子は通信締め切りの都合で掲載できないのが残念です。



蜂の巣保育園秋祭り



大谷川クリーン大作戦



ベンチ作り作業

### 10月～12月 活動実施

- 10/19(土) 西市民センター祭り参加
- 10/20(日) 大谷川クリーン大作戦
- 10/26(土) 五味ヶ谷の森整備
- 10/26(土) 一二三富の会 プレパーク応援
- 11/ 3(日) 五味ヶ谷の森里山体験会
- 11/ 9(水) もろやまプレパーク応援
- 11/16(土) 第一蜂の巣保育園秋祭り参加
- 11/23(土) 運動公園落葉清掃・焼芋体験
- 12/ 1(日) 地域デビュー切っ掛け広場参加
- 12/ 5(木) 福祉ベンチ製作
- 12/11(水) 五味ヶ谷森整備・門松教室準備
- 12/14(土) 一二三富の会門松教室応援
- 12/19(木) 福祉ベンチ製作
- 12/21(土) 家族で楽しむ門松教室

### 1月～3月 活動計画

- 1/ 8(水) 高倉市民の森整備・新年会
- 1/19(日) 木工教室
- 1/25(土) 藤金の森整備
- 2/ 1(土) 五味ヶ谷市民の森整備
- 2/19(水) 小彼岸桜根巻き作業
- 3/ 1(土) 木工教室
- 3/22(土) 太田ヶ谷の森整備

未定 福祉ベンチ製作・搬入  
スケジュールは雨などで変更が有りますので、当クラブHPを確認下さい。

会社をリタイヤした後、しばらくの充電期間時に、林業の担い手育成のための林業就業支援講習を、群馬県で1か月間、無料で受講し、実習時には刈払い機、チェーンソーの安全講習も習得し、林業作業を実体験することができた。

その経験を活かした自然保護関連のボランティア活動を探していたところ、市の広報で当クラブの存在を知り入会した。別途、パソコン経験を生かしたボラ活動にも興味があり、パソコンサポートボランティアにも入会し、講師となってEXCEL等の操作を教えてきた。また、趣味としては山登りで仲間と「どんぐり山行会」を立ち上げ、カメラでは「写楽会」なるクラブに入会する。

里山サポートでは、森の整備のため、草刈りや間伐材の伐採を行い、森の産物利用で伐採木でのベンチ作成、設置を行い、市民、子供を対象にプレイパーク、門松教室、竹細工、タケノコ堀り等多岐に渡るイベントが催されており、協力、参加をしているところです。

パソコンクラブではホームページ作成を習得し、「里山サポート」や「どんぐり山行会」のホームページを作り公開することができました。ただ、この後継者が見つからないのが心配の種です。

さて、人材不足と言われている中、一億総活躍時代とも言われているが、我々高齢者は年金をもらいながら時間を持て余している方々が比較的に多いのではないのでしょうか。であればこそ社会に貢献出来るボランティア活動をお勧めします。若い世代は子育てや教育費で疲弊し、共働きで急場をしのいでおり、とてもボランティア活動など出来る時間も余裕もないように見えます。その中であって、われわれ高齢者は若い人たちの立場に立って、彼らを助け、その若い世代が十二分に働ける環境を作るお手伝いをするようにしたいし、子供たちの未来のためには若い人たちも参加して欲しいと願っています。当クラブの方針として、出来る人が、出来ることを、出来るときに活動することですので気軽に参加し、高齢者も健康寿命を意識し、出来るだけ若い人たちの負担にならないようにボランティア活動を通して生活環境を改善していきたいものです。

一方、一人当たり市民の森の広さで関東圏内では有数の鶴ヶ島市は、森の保全面積が近年急激に減少しています。当里山サポートが活動している市民の森と太田ヶ谷の森で、市民の森1号では全体の4/5が、6号森では4/5が1年間で解約され、トータルでは8.4haだったのが6.8haほど指定を解除され1.6haに減少してしまいました。結果、市民の森全体で13.8haあったものが全体で5.9haとなってしまいました。

また、8号の森では林内を流れる小川が護岸工事によって失われようとしており、生息するメダカもホテルもいなくなってしまうそうです。何とかこの市民の森が残るように行政にも、買収を念頭に、ふるさと納税を利用した「緑の基金」や国の代行買収制度の活用など働きかけていますが、なかなか進まないのが現状です。是非とも皆様に森の保全賛同のご協力をお願いしたいところです。里山サポートではボランティアとして、老体を動かしながら、里山の維持保全を保全を行い、次世代に緑を、森を継承することを目的として活動しています。子供たちが森に触れ、自然を楽しむ姿を我々は見守り、子供たちの自立心を育成し、日本を強く、豊かにしていってほしいものです。



国土交通大臣賞受賞式にて佳子様よりお言葉を頂く



伐採した樹木の皮剥

「プラスチック問題」というと、まずは近所の川に流されているペットボトルやレジ袋、そして、陸地から遙か遠く  
の海に流れ着いている大量のプラスチックゴミ。そしてこれらのプラスチックゴミは、紫外線にさらされ波にもまれて、  
マイクロプラスチックとなって、海底に積み重なり、何百年存在し続けて、生態系に多大な影響を及ぼし始め  
ていることは、今では、だれもが知るところでしょう。

ひるがえって我が家を見回してみると、天井も壁も床も扉もプラスチック、リビングもお風呂もトイレもプラスチック  
だらけ、こんなにもプラスチックに囲まれ、お世話になって暮らしているのかとビックリしてしまいます。

1860年代にアメリカで「セルロイド」が発明され、戦後の大量生産技術の発展と経済成長により、安価で利便性  
の高いプラスチック製品が一般家庭に普及しました。

プラスチック問題は環境汚染ばかりでなく、魚などを介したり、空中に飛  
散するマイクロプラスチックを吸収したりして人体に取り込まれたプラスチ  
ックから浸みだす「内分泌攪乱物質」の影響は免疫機能の低下、生殖機能  
障害などの数限りないことが指摘されています。

途方に暮れてしまいますが、消費者である私たちだからこそできること  
があります。まずは、生活クラブ生協の「びんのリユース」の仕組みを活用  
して調味料を購入、「プラスチックたわし」を天然素材の「へちまたわし」に  
変える、プラスチック容器を減らす、天然素材の衣類・・・そして生ごみ減量  
のためにコンポストの活用、アップサイクルでもう一回活用。プラスチック  
に代わる素材を選ぶことで、「脱プラで気持ちのいい暮らし」を実現してい  
きたいと思います。



緑のカーテンで へちまたわし



## 編集後記

市民の森が 20 年以上の経過により、契約解除が増加しているとのこと。本年だけで、市民の森は  
約 7.6ha 契約解除となり、2023 年に 13.8ha あった市民の森が、5.9ha となってしまいました。これまで  
一人あたり日本一とっていたのが、残念ながらその位置を失ってしまいました。特に、市民の森は指定  
以降 20 年を経過し、相続税の緩和が生じることとなり、今後、急激な契約解除が始まる恐れがあると憂  
慮しています。市の対応が望まれますが、なかなか理解が進みません。

市民の森の減少対策や、新たな市民の森の指定などに取り組む必要が高まっています。市民の皆様にご  
のような急激な里山の減少に対し、市民として、市の施策展開の要望を行う必要があります。県では緑の  
トラスト運動を推進して県民の寄付を求めています。鶴ヶ島市も里山のトラスト運動を始める必要があ  
ると考えています。特に、後 2~3 年後に藤金市民の森が、指定後 20 年を経過すること、都市計画道路が  
開通することなどから、契約解除の恐れがあります。子ども達の活動の場がなくなってしまう恐れがあ  
ります。会員の皆様の力をお借りして、里山のトラスト活動を市に求めていく必要があります。

: <http://www.satoyamasupport.com/>